

## ◎観瀾校のコミュニティ

地域の活力を生かし、地域の人々を学校に取り組み込むこと。つまり、地域の人々による学校支援のこと。

# つなぐ 63号

小城市立小中一貫校  
芦刈観瀾校  
H27. 10. 6 (火)  
文責：白井

◆本通信は、地域の方々との連携による芦刈観瀾校の教育活動を保護者の皆様にお知らせするものです。さまざまな取り組みによって子どもたちが「豊かな心と確かな学力」を育んでいく様子をお伝えしています。

◆昨年度まで本通信で紹介していました芦刈観瀾校小中一貫の取組につきましては、学校通信「ともに」でお伝えしております。

## 地域ボランティアの方々の支援による活動 7～9月編

### 有明海干潟体験 (1年生) 7/10



7月には、1年生の干潟体験に協力していただきました。多くの目に見守られながら、子ども達は全身泥だらけになって干潟を楽しみました。保護者さんと一緒にシャワーや着替えの手伝いもしていただきました。

### スケッチ会の見守り (3、4、6年生) 9/18

スケッチ場所へ自転車に向かう4、6年生の安全指導やスケッチ場所での見守りをしていただきました。



### 冬野菜の種まき (3年生) 9/9



油かすや堆肥を混ぜた栄養たっぷりの土で畝を作り、8種類の野菜の種を蒔きました。芦穂会の方々は、日頃から様子を見に来て間引きをしたりネットを張ったりと、活動日以外にも引き続き支援してくださっています。

3年生の子どもたちは、毎日、水やりや観察をしながら育て、3学期、おいしく楽しい豚汁会をしようとはりきっています。

### ミシン支援(5年生) 9/29～

5年生は、9月末から「エプロン作り」を始めました。大半がミシン縫い初心者の子供達ですが、みるみる上達して、着々とエプロンの製作が進んでいます。ボランティアの先生方に「上手に縫えるねえ！」と誉めてもらって、自信をつけています。2クラス合計19時間の支援をしていただきます。

### ミシン支援 (6年生) 9/10～



「ナップサック作り」に5～8名の地域ボランティアの先生方が、3回来てくださいました。適切に支援して下さるため、子どもたちは安心して順調に作業を進めることができました。全員が自作の自慢のナップサックを持って、今月8日からの長崎修学旅行に行ってきます。



## 小城市社会教育委員の皆様がの学校視察

10月1日に小城市社会教育委員と小城市教育委員会の総勢19名が、芦刈観瀾校を訪問され、地域ボランティアによる授業支援を視察されました。

まず、3年1組の習字の授業と5年2組の家庭科(ミシン縫い)の授業を参観され、その後ボランティアの先生方との意見交流会がもたれました。

社会教育委員の皆様が口々におっしゃったのは、手厚くきめ細やかな支援を受けて、生き生きと学ぶ芦刈の子ども達は、本当に幸せであること。また、地域の方々の熱心さに驚かれ、この芦刈の地には学校をあたたく見守り応援しようという風土が根付いていることに感心されていました。

本校の「夢つなぎボランティア学校支援事業」は、平成20年度から始まり、今年で8年目を迎えています。昨年度のボランティアの支援実績は、延べ743人を数えました。子ども達は、ボランティアの先生方に

「大丈夫。こうすればいいよ。」

と支えてもらうことを通して、そのやさしさを心に刻み、大人への信頼が育まれています。また、学校にお見えになるボランティアの先生方は、日頃から、子ども達が日々成長している姿を喜んでくださっています。

「地域で会ってもよく挨拶してくれるんですよ。」

「朝のすくすくタイムで顔なじみになっているので、自転車の乗り方で注意をしても、素直に聞いてくれるんです。」

といったお話もよく耳にします。学校支援の取組が、地域の方々との絆を深めているようです。長年にわたる取組の蓄積が、今、芦刈観瀾校の大きな財産となっていると感じています。社会教育委員の皆様も、このような学校支援の取組を、ぜひ小城市全体に広げていきたいという感想をもたれていました。

## 2学期も引き続き、ご支援いただいています

今学期も、すくすくタイム、読み聞かせ、3年生の習字の授業に地域ボランティアの先生方が来て下さっています。すっかり定着したそれぞれの活動で、子ども達は、先生方に会えるのを楽しみにしています。先生方のご支援で、計算や読書、習字が大好きな子どもが増えていきます。

